

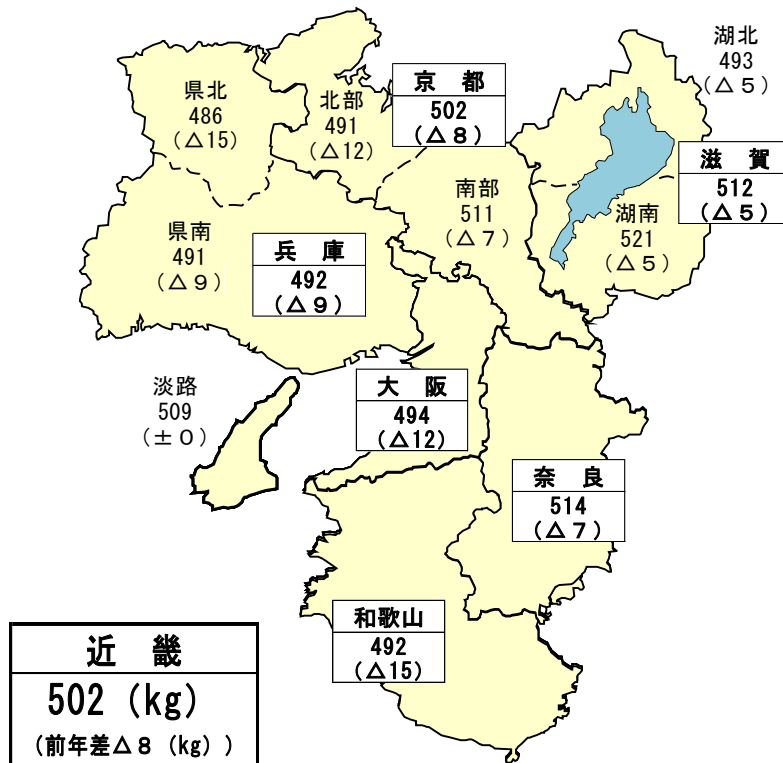
平成30年産水稻の収穫量（近畿）

— 水稻の収穫量（主食用）は49万8,700 t —

【調査結果の概要】

- 1 平成30年産水稻の作付面積（子実用）は10万3,100haで、うち主食用作付面積は9万9,500haとなった。
- 2 水稻の10 a 当たり収量は502kgとなり、前年産に比べ8 kg減少した。
また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は98となった。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は51万7,500 t で、うち主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は49万8,700 t となった。

図1 水稻の府県別・作柄表示地帯別10 a 当たり収量



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
なお、農家等が使用しているふるい目幅ベース（近畿は1.80mm）の作況指数は6ページ表1を参照。

本資料は、近畿農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2018.html> 】

この統計調査における調査の目的、調査の対象などは、【調査の概要】13ページに掲載しています。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

1 水稲（子実用）の年次別推移

(1) 近畿

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	110,500	499	551,800	109,400	546,100	98
22	110,500	500	552,000	109,000	544,800	98
23	109,300	504	551,200	107,700	542,800	99
24	109,100	515	561,400	107,400	552,700	101
25	109,400	518	567,200	106,900	554,000	102
26	108,000	497	537,100	104,500	519,900	98
27	105,800	508	537,200	101,900	517,700	100
28	104,500	516	538,700	100,500	519,000	102
29	103,200	510	526,600	99,400	507,000	100
30	103,100	502	517,500	99,500	498,700	98

資料：農林水産省統計部『作物統計』（(2)～(7)、5ページ(1)及び(2)の統計表において同じ。）

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下同じ。）。
- 2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ。）。
- 3 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（以下同じ。）。
- 4 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下同じ。）。

(2) 滋賀県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	33,200	512	170,000	32,700	167,400	99
22	33,100	516	170,800	32,500	167,700	100
23	32,700	513	167,800	32,100	164,700	99
24	32,800	529	173,500	32,200	170,300	102
25	33,400	529	176,700	32,000	169,300	102
26	33,000	502	165,700	31,300	157,100	97
27	32,200	518	166,800	30,600	158,500	100
28	31,900	534	170,300	30,200	161,300	104
29	31,700	517	163,900	30,000	155,100	100
30	31,700	512	162,300	30,100	154,100	99

(3) 京都府

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	15,800	486	76,800	15,700	76,300	95
22	15,800	504	79,600	15,700	79,100	99
23	15,600	508	79,200	15,400	78,200	99
24	15,600	519	81,000	15,400	79,900	102
25	15,500	530	82,200	15,300	81,100	104
26	15,200	507	77,100	14,900	75,500	99
27	15,000	510	76,500	14,400	73,400	100
28	14,800	516	76,400	14,300	73,800	101
29	14,700	510	75,000	14,100	71,900	100
30	14,500	502	72,800	13,900	69,800	98

(4) 大阪府

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	5,840	495	28,900	5,840	28,900	100
22	5,820	486	28,300	5,820	28,300	98
23	5,740	502	28,800	5,730	28,800	101
24	5,680	507	28,800	5,670	28,700	102
25	5,640	502	28,300	5,630	28,300	101
26	5,550	495	27,500	5,540	27,400	100
27	5,440	495	26,900	5,440	26,900	100
28	5,310	505	26,800	5,310	26,800	102
29	5,150	506	26,100	5,150	26,100	102
30	5,010	494	24,700	5,000	24,700	99

(5) 兵庫県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	38,700	493	190,800	38,200	188,300	98
22	38,800	486	188,600	38,100	185,200	96
23	38,400	494	189,700	37,600	185,700	98
24	38,300	502	192,300	37,500	188,300	100
25	38,400	506	194,300	37,500	189,800	100
26	37,900	487	184,600	36,500	177,800	97
27	37,300	501	186,900	35,700	178,900	99
28	37,000	501	185,400	35,400	177,400	100
29	36,600	501	183,400	35,100	175,900	100
30	37,000	492	182,000	35,500	174,700	98

(6) 奈良県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	9,340	511	47,700	9,310	47,600	100
22	9,360	505	47,300	9,330	47,100	98
23	9,330	519	48,400	9,270	48,100	101
24	9,250	523	48,400	9,200	48,100	102
25	9,190	527	48,400	9,150	48,200	103
26	9,060	514	46,600	9,040	46,500	100
27	8,870	515	45,700	8,850	45,600	100
28	8,710	525	45,700	8,680	45,600	102
29	8,610	521	44,900	8,580	44,700	102
30	8,580	514	44,100	8,530	43,800	100

(7) 和歌山県

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成21年産	7,650	491	37,600	7,650	37,600	100
22	7,620	491	37,400	7,620	37,400	99
23	7,590	492	37,300	7,590	37,300	99
24	7,430	504	37,400	7,430	37,400	102
25	7,380	506	37,300	7,380	37,300	102
26	7,230	492	35,600	7,230	35,600	99
27	6,900	499	34,400	6,900	34,400	101
28	6,720	507	34,100	6,720	34,100	102
29	6,560	507	33,300	6,560	33,300	102
30	6,430	492	31,600	6,430	31,600	99

2 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（12ページ【参考1】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

(1) ふるい目幅別重量分布状況の推移（近畿）

年 産	計	単位：%					
		1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成25年産	100.0	1.1	1.8	2.6	3.1	14.9	76.5
26	100.0	1.0	1.7	2.3	2.7	14.7	77.6
27	100.0	1.0	1.6	2.3	2.8	14.1	78.2
28	100.0	0.7	1.3	1.8	2.2	12.1	81.9
29	100.0	0.7	1.3	1.8	2.2	12.1	81.9
30	100.0	0.9	1.6	2.1	2.9	15.2	77.3
平均 値	100.0	0.9	1.6	2.2	2.7	13.8	78.8
対平均差（ポイント）	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.2	1.4	△ 1.5

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である（以下同じ。）。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる（以下同じ。）。

(2) ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（近畿）

区 分	単 位	単位：%						
		1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
平成25年産	10a 当たり収量	kg	518	512	503	490	473	396
	収穫量	t	567,200	561,000	550,800	536,000	518,400	433,900
26	10a 当たり収量	kg	497	492	484	472	459	386
	収穫量	t	537,100	531,700	522,600	510,200	495,700	416,800
27	10a 当たり収量	kg	508	503	495	483	469	397
	収穫量	t	537,200	531,800	523,200	510,900	495,800	420,100
28	10a 当たり収量	kg	516	512	506	496	485	423
	収穫量	t	538,700	534,900	527,900	518,200	506,400	441,200
29	10a 当たり収量	kg	510	505	498	489	476	407
	収穫量	t	526,600	521,900	514,000	504,500	491,300	420,800
30	10a 当たり収量	kg	502	497	489	479	464	388
	収穫量	t	517,500	512,800	504,600	493,700	478,700	400,000
	対前年比	%	98	98	98	98	97	95

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、近畿の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、近畿の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

【調査結果】

1 作付面積

平成30年産水稻の作付面積（子実用）は10万3,100haで、うち主食用作付面積は9万9,500haとなった。

2 作柄概況

- (1) 穂数は、7月から8月にかけて気温が平年を上回ったことから出穂が早まり無効分げつが増加した京都府及び和歌山県ではそれぞれ「やや少ない」、その他の府県では「平年並み」となった。
- (2) 1穂当たりもみ数は、穂数がやや少なくなったことによる補償作用により和歌山県では「やや多い」、その他の府県では「平年並み」となった。
- (3) これらのことから、全もみ数は全府県で「平年並み」となった。
- (4) 登熟は、8月及び10月上旬の気温、日照時間が平年を上回ったものの、9月の気温、日照時間がおおむね平年を下回って経過したことから滋賀県、京都府、大阪府及び奈良県では「平年並み」、兵庫県及び和歌山県では「やや不良」となった。
- (5) この結果、近畿の水稻10a当たり収量は502kg（前年産に比べ8kg減少）となった。
また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は98となった。

3 収穫量

収穫量（子実用）は51万7,500t（前年産に比べ9,100t減少）となった。

うち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は49万8,700tとなった。

表1 平成30年産水稻の府県別作付面積及び収穫量

区分	作付面積（子実用）			10a当たり収量					収穫量（子実用）			参 考		
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	（参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別			実 数 ⑥=①×②	前年産との比較		主 食 用 作 付 面 積 ⑦	収 穫 量 （主食用） ⑧=⑦×②		
		対 差	対 比		10a 当たり 収 量 ③	10a 当たり 平 年 収 量 ④	作 況 指 数 ⑤=③/④		対 差	対 比				
													ha	ha
近 畿	103,100	△	100	100	502	489	497	98	517,500	△	9,100	98	99,500	498,700
滋 賀	31,700		0	100	512	501	506	99	162,300	△	1,600	99	30,100	154,100
湖 南	21,600		100	100	521	510	514	99	112,400	△	800	99	…	…
湖 北	10,100		0	100	493	484	488	99	49,900	△	600	99	…	…
京 都	14,500	△	200	99	502	491	501	98	72,800	△	2,200	97	13,900	69,800
南 部	7,290	△	100	99	511	499	505	99	37,300	△	1,000	97	…	…
北 部	7,190	△	70	99	491	483	496	97	35,300	△	1,200	97	…	…
大 阪	5,010	△	140	97	494	475	480	99	24,700	△	1,400	95	5,000	24,700
兵 庫	37,000		400	101	492	479	490	98	182,000	△	1,400	99	35,500	174,700
県 南	28,000		400	101	491	478	489	98	137,400	△	500	100	…	…
県 北	5,700		40	101	486	475	493	96	27,700	△	700	98	…	…
淡 路	3,290	△	70	98	509	489	488	100	16,700	△	400	98	…	…
奈 良	8,580	△	30	100	514	499	500	100	44,100	△	800	98	8,530	43,800
和 歌 山	6,430	△	130	98	492	479	484	99	31,600	△	1,700	95	6,430	31,600

注：1 近畿の作付面積（子実用）、収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については、府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない。

2 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の③10a 当たり収量、④10a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

図2 府県別作況指数
【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

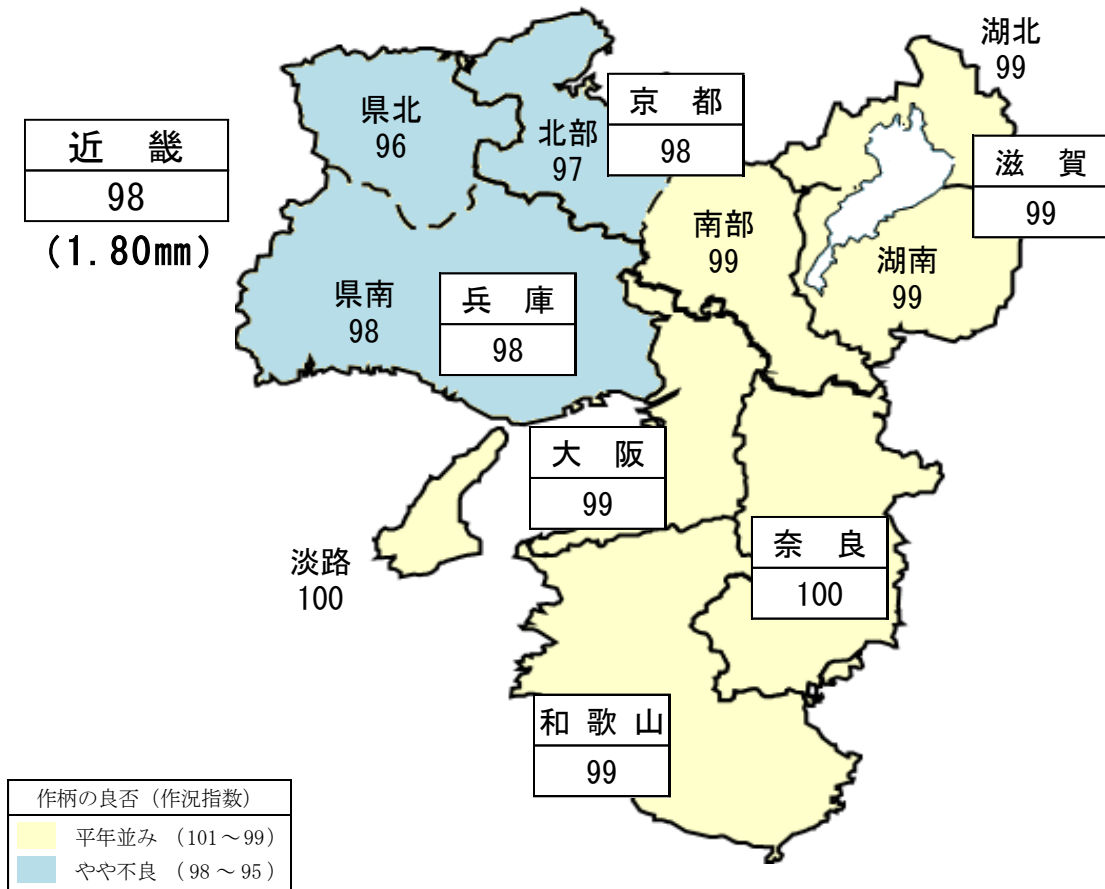


表2 平成30年産水稻の府県別作柄概況及び耕種期日

区分	作柄概況 (平年比較)				耕種期日					
	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多 少	登熟の良否	田植期		出穂期		刈取期	
					最盛期	対平 年差	最盛期	対平 年差	最盛期	対平 年差
					月 日		月 日		月 日	
滋 賀	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	5. 8	2日早	7. 28	4日早	9. 12	3日早
湖 南	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	5. 6	2日早	7. 27	4日早	9. 12	3日早
湖 北	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	5. 11	並 み	7. 29	3日早	9. 12	3日早
京 都	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み	5. 22	1日早	7. 31	3日早	9. 28	5日遅
南 部	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み	5. 27	並 み	8. 4	4日早	10. 6	5日遅
北 部	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	5. 16	1日早	7. 25	3日早	9. 18	4日遅
大 阪	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	6. 8	並 み	8. 22	2日早	10. 13	並 み
兵 庫	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	6. 3	1日早	8. 8	4日早	10. 1	1日遅
県 南	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	6. 5	並 み	8. 9	4日早	10. 4	1日遅
県 北	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	5. 14	2日早	7. 23	7日早	9. 17	2日遅
淡 路	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	6. 17	1日早	8. 17	2日早	9. 28	1日遅
奈 良	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	6. 8	並 み	8. 23	1日早	10. 15	1日遅
和 歌 山	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	6. 3	1日早	8. 5	2日早	9. 18	1日早

注：1 田植期の最盛期とは、田植済面積割合が50%に達した期日である。出穂期及び刈取期についても同様である。
2 耕種期日の対平年差は、直近5か年平均との比較である。

表3 平成30年産水稻の収量構成要素（水稻作況標本筆調査成績）

区 分	1 m ² 当たり 株 数		1 株当たり 有効穂数		1 m ² 当たり 有効穂数		1 穂当たり も み 数		1 m ² 当たり 全もみ数		千もみ当たり 収 量	
	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比
近 畿	株 15.9	% 96	本 22.1	% 103	本 352	% 99	粒 80.1	% 100	百粒 282	% 99	g 18.1	% 99
滋 賀	16.0	95	23.3	105	373	99	79.6	99	297	99	17.6	101
京 都	16.4	99	20.3	99	333	97	82.6	101	275	99	18.5	99
大 阪	15.1	92	23.8	109	360	100	80.0	100	288	100	17.4	99
兵 庫	15.8	98	21.3	102	337	100	79.5	99	268	99	18.7	98
奈 良	15.7	94	23.1	107	362	101	80.9	99	293	99	17.8	101
和歌山	16.0	95	22.6	103	361	98	78.9	103	285	101	17.5	98

区 分	粗 玄 米 粒数歩合		玄 米 粒数歩合		玄 米 千 粒 重		10 a 当たり 粗 玄 米 重		玄米重 歩 合		10 a 当たり 玄 米 重	
	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比	実数	対平 年比
近 畿	% 86.9	% 99	% 95.1	% 101	g 21.9	% 100	kg 525	% 98	% 97.1	% 100	kg 510	% 98
滋 賀	83.5	97	97.2	103	21.7	100	531	97	98.3	101	522	99
京 都	89.5	101	95.1	100	21.8	99	520	98	97.9	100	509	98
大 阪	88.5	100	92.5	99	21.2	101	524	100	95.6	99	501	100
兵 庫	89.6	99	94.2	99	22.1	100	518	98	96.5	99	500	98
奈 良	86.3	100	94.5	99	21.8	101	542	101	96.3	99	522	100
和歌山	86.0	99	92.2	98	22.1	101	523	101	95.6	99	500	100

注：1 対平年比とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1 m²当たり株数等）の平年値との対比である。
 2 千もみ当たり収量、玄米千粒重及び10 a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

4 平成30年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) 等

近畿のふるい目幅別重量分布状況をみると、1.80mm以上の玄米の重量割合は97.5%となり、直近5か年平均値と比べ同値になっている(表4参照)。

表4 平成30年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
近 畿	重量割合	100.0	0.9	1.6	2.1	2.9	15.2	77.3
	平均値	100.0	0.9	1.6	2.2	2.7	13.8	78.8
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.2	1.4	△ 1.5
滋 賀	重量割合	100.0	0.8	1.3	1.9	2.5	14.8	78.7
	平均値	100.0	0.9	1.5	2.0	2.4	12.9	80.3
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.1	0.1	1.9	△ 1.6
湖 南	重量割合	100.0	0.8	1.4	1.9	2.3	13.5	80.1
	平均値	100.0	0.9	1.5	1.9	2.3	12.0	81.4
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.1	0.0	0.0	1.5	△ 1.3
湖 北	重量割合	100.0	0.7	1.2	2.0	2.8	17.6	75.7
	平均値	100.0	0.9	1.6	2.1	2.7	14.5	78.2
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.1	0.1	3.1	△ 2.5
京 都	重量割合	100.0	0.8	1.3	1.9	2.3	11.8	81.9
	平均値	100.0	0.7	1.3	1.5	1.7	9.5	85.3
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	0.4	0.6	2.3	△ 3.4
南 部	重量割合	100.0	0.9	1.5	2.4	2.6	12.6	80.0
	平均値	100.0	0.7	1.3	1.6	1.9	10.5	84.0
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	0.8	0.7	2.1	△ 4.0
北 部	重量割合	100.0	0.6	1.1	1.4	1.9	10.9	84.1
	平均値	100.0	0.6	1.1	1.2	1.3	8.2	87.6
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	2.7	△ 3.5
大 阪	重量割合	100.0	1.5	2.4	3.8	5.0	20.6	66.7
	平均値	100.0	1.3	2.2	4.3	4.5	20.8	66.9
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.2	△ 0.5	0.5	△ 0.2	△ 0.2
兵 庫	重量割合	100.0	0.9	1.8	2.2	3.1	16.7	75.3
	平均値	100.0	1.0	1.6	2.4	3.0	15.4	76.6
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.2	△ 0.2	0.1	1.3	△ 1.3
県 南	重量割合	100.0	0.9	1.8	2.3	3.2	17.1	74.7
	平均値	100.0	1.0	1.6	2.4	2.9	15.2	76.9
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.2	△ 0.1	0.3	1.9	△ 2.2
県 北	重量割合	100.0	0.8	1.5	1.6	2.0	11.3	82.8
	平均値	100.0	0.9	1.1	1.6	2.3	11.0	83.1
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.4	0.0	△ 0.3	0.3	△ 0.3
淡 路	重量割合	100.0	1.3	2.6	2.7	3.9	21.5	68.0
	平均値	100.0	1.6	2.2	3.8	4.6	23.6	64.2
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.3	0.4	△ 1.1	△ 0.7	△ 2.1	3.8
奈 良	重量割合	100.0	1.0	2.0	2.4	3.4	15.6	75.6
	平均値	100.0	0.8	1.9	2.1	3.0	14.9	77.3
	対平均差(ポイント)	0.0	0.2	0.1	0.3	0.4	0.7	△ 1.7
和 歌 山	重量割合	100.0	1.0	1.6	2.0	2.5	12.4	80.5
	平均値	100.0	0.9	1.5	1.9	2.4	13.6	79.7
	対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	△ 1.2	0.8

表5 平成30年産水稻玄米のふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）

単位：kg

区 分		1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
近 畿	10a当たり収量	502	497	489	479	464	388
	収穫量（t）	517,500	512,800	504,600	493,700	478,700	400,000
滋 賀	10a当たり収量	512	508	501	492	479	403
	収穫量（t）	162,300	161,000	158,900	155,800	151,800	127,700
湖 南	10a当たり収量	521	517	510	500	488	417
	湖 北	10a当たり収量	493	490	484	474	460
京 都	10a当たり収量	502	498	491	482	470	411
	収 穫 量（t）	72,800	72,200	71,300	69,900	68,200	59,600
南 部	10a当たり収量	511	506	499	486	473	409
	北 部	10a当たり収量	491	488	483	476	466
大 阪	10a当たり収量	494	487	475	456	431	329
	収 穫 量（t）	24,700	24,300	23,700	22,800	21,600	16,500
兵 庫	10a当たり収量	492	488	479	468	453	370
	収 穫 量（t）	182,000	180,400	177,100	173,100	167,400	137,000
県 南	10a当たり収量	491	487	478	466	451	367
	県 北	10a当たり収量	486	482	475	467	457
淡 路	10a当たり収量	509	502	489	475	456	346
	奈 良	10a当たり収量	514	509	499	486	469
和 歌 山	収 穫 量（t）	44,100	43,700	42,800	41,700	40,200	33,300
	10a当たり収量	492	487	479	469	457	396
	収 穫 量（t）	31,600	31,300	30,800	30,100	29,400	25,400

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、近畿又は府県及び作柄表示地帯別の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、近畿又は府県別の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表6 平成30年産水稻作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況

単位：%

区 分		計	100kg 未 満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700kg 以 上
近 畿	筆 数 割 合	100.0	0.1	-	1.8	6.7	33.3	46.3	11.7	0.1
	前 年 値	100.0	-	-	1.0	4.9	30.1	53.3	10.5	0.2
	対前年差（ポイント）	0.0	0.1	-	0.8	1.8	3.2	△ 7.0	1.2	△ 0.1
滋 賀	筆 数 割 合	100.0	-	-	1.4	3.3	29.5	55.3	10.0	0.5
	前 年 値	100.0	-	-	0.5	3.8	25.2	61.4	8.6	0.5
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	0.9	△ 0.5	4.3	△ 6.1	1.4	0.0
京 都	筆 数 割 合	100.0	-	-	3.3	8.7	28.0	47.3	12.7	-
	前 年 値	100.0	-	-	2.0	6.0	26.0	53.3	12.7	-
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	1.3	2.7	2.0	△ 6.0	0.0	-
大 阪	筆 数 割 合	100.0	-	-	6.0	8.0	30.0	42.0	14.0	-
	前 年 値	100.0	-	-	2.0	4.0	36.0	46.0	12.0	-
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	4.0	4.0	△ 6.0	△ 4.0	2.0	-
兵 庫	筆 数 割 合	100.0	-	-	0.9	7.8	40.0	40.0	11.3	-
	前 年 値	100.0	-	-	0.9	6.5	34.8	48.2	9.6	-
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	0.0	1.3	5.2	△ 8.2	1.7	-
奈 良	筆 数 割 合	100.0	-	-	1.0	5.1	32.3	45.4	16.2	-
	前 年 値	100.0	-	-	-	3.0	27.0	55.0	15.0	-
	対前年差（ポイント）	0.0	-	-	1.0	2.1	5.3	△ 9.6	1.2	-
和 歌 山	筆 数 割 合	100.0	1.0	-	1.0	9.0	36.0	44.0	9.0	-
	前 年 値	100.0	-	-	1.0	4.0	36.0	50.0	8.0	1.0
	対前年差（ポイント）	0.0	1.0	-	0.0	5.0	0.0	△ 6.0	1.0	△ 1.0

注：10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

図3 平成30年産水稻作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（近畿）

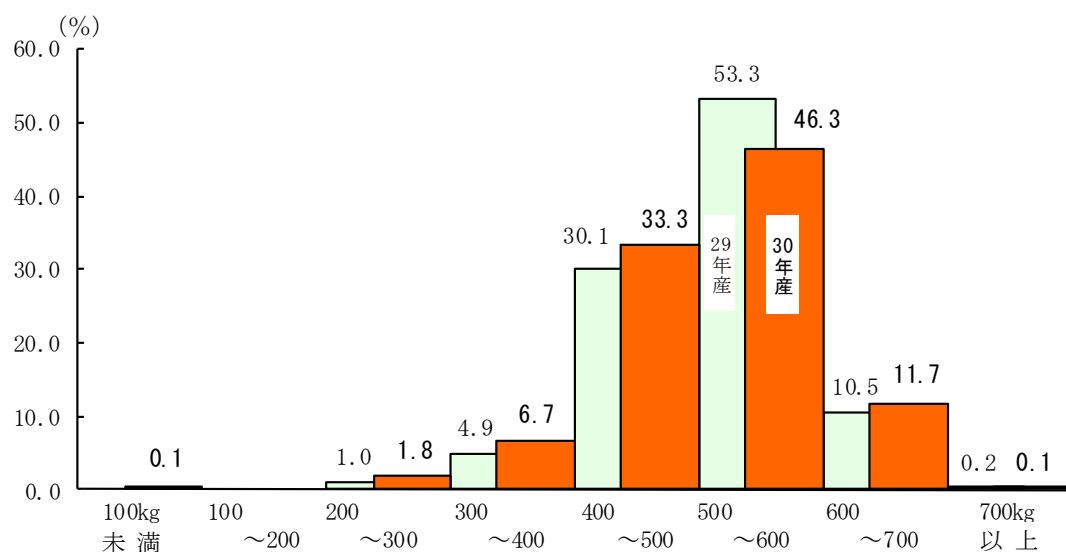


表7 平成30年産水稻の玄米品位の状況（近畿）

単位：%

区 分	整 粒	未熟粒	乳白粒・腹白粒		被害粒	死米・着色粒
重量割合	66.5	27.0	2.5		6.5	0.7
前年値	70.2	25.3	3.6		4.5	0.9
対前年差（ポイント）	△ 3.7	1.7	△ 1.1		2.0	△ 0.2

注：1 作況基準筆の刈取試料を穀粒判別器を用いて品位分析したものである。

2 当該品位分析は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

表8 平成30年産水稻の被害面積及び被害量（近畿）

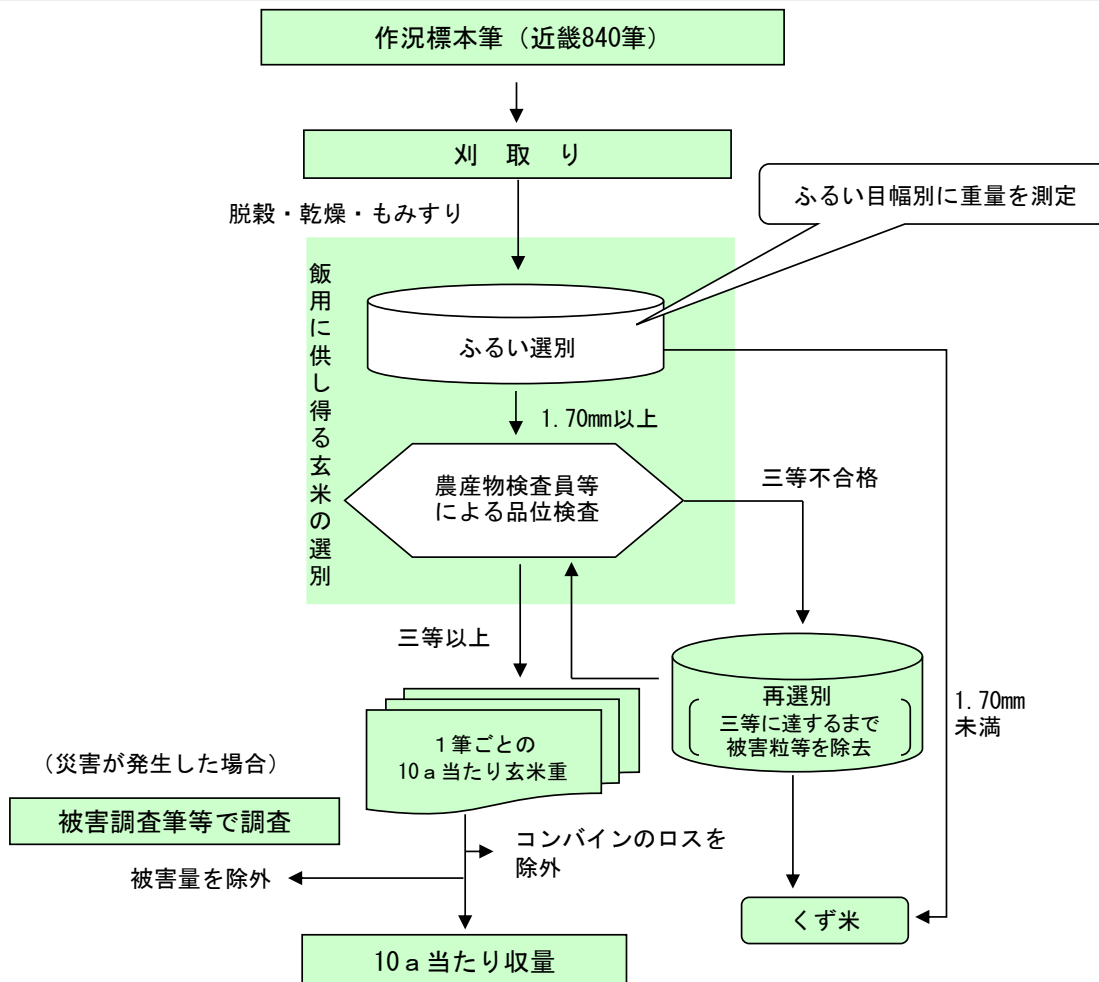
被害種類	被害面積	被害量	被害率	
			本年	対前年差
	ha	t	%	ポイント
冷 害	-	-	-	0.0
日照不足	74,300	12,200	2.3	1.4
高温障害	23,100	2,440	0.5	0.2
いもち病	13,300	5,760	1.1	△ 0.1
ウンカ	5,110	818	0.2	0.1
カメムシ	6,960	717	0.1	0.0

注：平成29年産より、冷害、日照不足、高温障害、いもち病、ウンカ及びカメムシについて取りまとめた。

【参考 1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 2】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考 2】

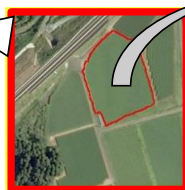
作況標本筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（近畿で840筆）調査している。

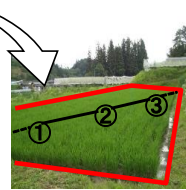
府県内の全ての土地
(母集団)



標本単位区
(200m四方の土地)



作況標本筆
(近畿で840筆)



1 府県ごとの全ての土地を200m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

3 各作況標本筆の対角線上の3か所(①、②、③)を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量等を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に実施している。

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

滋賀県	標本単位区：521単位区
京都府	標本単位区：434単位区
大阪府	標本単位区：320単位区
兵庫県	標本単位区：999単位区
奈良県	標本単位区：307単位区
和歌山県	標本単位区：479単位区

(2) 収穫量調査

滋賀県	作況標本筆：210筆	作況基準筆：8筆
京都府	作況標本筆：150筆	作況基準筆：16筆
大阪府	作況標本筆：50筆	作況基準筆：21筆
兵庫県	作況標本筆：230筆	作況基準筆：11筆
奈良県	作況標本筆：100筆	作況基準筆：8筆
和歌山県	作況標本筆：100筆	作況基準筆：6筆

4 調査事項

水稻の作付面積、登熟状況、10 a 当たり収量、被害状況、被害種類別被害面積・被害量及び耕種条件等

5 調査期日

- (1) 作付面積調査：平成30年7月15日現在
- (2) 収穫量調査：収穫期

6 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

職員又は統計調査員による標本単位区に対する実測調査により行った。

なお、職員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

(2) 収穫量調査

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。

なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完している。

ふるい目幅別の調査は、刈取り・もみすりした粗玄米を縦目ふるいにより、ふるい目幅別に選別し重量を計測することにより行った。

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「分げつ」とは、茎から発生するえき芽のこと。いわゆる茎が分かれていくことである。
- (3) 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (6) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (7) (3)から(6)の平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。
- (9) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。
 なお、平成26年産以前の作況指数は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- (10) 「整粒歩合」とは、一定量の中に存在する欠け米、割れ米、未熟米、被害粒等を除いた整粒の割合のことである。

- (11) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量から減収した面積をいう。
- (12) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量より減収した量をいう。
- (13) 「被害率」とは、平年収量（作付面積×10a 当たり平年収量）に対する被害量の比率をいう。
- (14) 「作柄表示地帯」とは、水稻作況調査における調査結果の分析、検討、提供及び利用のため、地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、都道府県内を水稻の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域をいう。
 なお、大阪府、奈良県及び和歌山県は設定していない。
 近畿各府県の作柄表示地帯の包括範囲は次表のとおりである。

府県名	作柄表示地帯名	市 町 村 名
滋賀	湖南	大津市、彦根市、近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
	湖北	長浜市、高島市、米原市
京都	南部	京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、南丹市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村、京丹波町
	北部	福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
大阪	-	大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市、島本町、豊能町、能勢町、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村
兵庫	県南	神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、芦屋市、伊丹市、相生市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、篠山市、丹波市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町
	県北	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
	淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市
奈良	-	奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市、山添村、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、曾爾村、御杖村、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村
和歌山	-	和歌山市、海南市、橋本市、有田市、御坊市、田辺市、新宮市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、高野町、湯浅町、広川町、有田川町、美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ町、日高川町、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町

8 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原数		6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- (2) 表中に用いた記号は次のとおりである。

「0」：単位に満たないもの（例：0.4ha→0ha）
「0.0」：増減がないもの
「－」：事実のないもの
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの

- (3) この資料に掲載された数値等を他に転載する場合は、「平成30年産水稻の収穫量（近畿）」（近畿農政局）による旨を記載してください。

9 その他

この資料の詳細な数値は、農林水産省ホームページに掲載（平成31年2月予定）するとともに、その後刊行する『近畿農林水産統計年報』への掲載を予定している。

なお、詳細な数値を農林水産省ホームページに掲載した後の正誤情報は、農林水産省ホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

- 近畿の統計調査結果は、近畿農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/> 】

- 全国の統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y5 】

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

【お問合せ先】

◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課

電話：（代表）075-451-9161 内線 2654

（直通）075-414-9650

FAX： 075-417-2067

◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課

電話：（代表）075-451-9161 内線 2623

（直通）075-414-9620

FAX： 075-417-2067



政府統計

政府統計の総合窓口

(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>



漁業センサス

平成31年1月1日現在で、魚市場及び冷凍・冷蔵、水産加工工場を対象に、2018年漁業センサス流通加工調査を実施します。

調査票が届きましたら、記入の御協力をお願いいたします。また、調査票はオンラインによる回答も可能です。